

## H-2:産学官連携

開催日時・会場 9月15日(水曜日) 13:50-15:20 WEB-ONLY

### 大学キャンパス全体のイノベーション・コモンス化と URAの役割

今後の国立大学等は、知と人材の集積拠点として、市民・行政・教育研究機関・企業等、社会の様々なステークホルダーとの連携により、創造活動を展開する「共創」の拠点（共創拠点：イノベーション・コモンス）としてソフト、ハード面共に整備されることが期待されている（例えば、次期国立大学法人等施設整備計画策定に向けた最終報告）。第6期科学技術・イノベーション基本計画の中でも、Society5.0の実現に向けた科学技術・イノベーション政策の中で、“キャンパス全体が有機的に連携し、あらゆる分野、あらゆる場面で、あらゆるプレイヤーが共創できる拠点「イノベーション・コモンス」の実現”が謳われ、各大学の特色ある取り組みが期待されている。

一方、このような考えで大学のイノベーション・コモンス化を進める際、大学全体の経営判断や個々の研究者の研究推進を最大化しながら進めることが重要であり、その役割はURAの役割と大きく重なる。日本にURAが誕生して10年近く経つ今、URAの役割と強みを活かす現場として、大学のイノベーション・コモンス化にURAがどのように関わるかは重要なテーマとなる。そこで本セッションでは、文部科学省でまとめられたイノベーション・コモンスのビジョンの提示を皮切りに、特徴的な取り組みを進めている京都大学、山口大学、九州工業大学の先行事例の紹介を踏まえ、大学のイノベーション・コモンス化に対するURAの役割を議論する。

京都大学では、研究支援機能も持った桂図書館を起点とした研究シーズの可視化（キャンパス全体を研究フィールドとした実証研究や研究シーズ展示等）を紹介する。キャンパスに集う多様なステークホルダーが、研究シーズと出会うイノベーションの場を目指している。

山口大学からは、アイデアを創造する実践・共創を誘発する場、起業家マインドを持つ人材育成・教育を推進する場所である「志」イノベーション道場の取組を紹介する。道場では、起業家・支援者・産業人との接点を提供し、異分野・産業界との交流の場を創出している。

九州工業大学は、キャンパスのイノベーション・コモンス化を推進するためのハブとなる共創空間「GYM LABO」を、戸畑キャンパスの旧体育館を改修することで創生する。この共創空間「GYM LABO」のコンセプトと、GYMLABOを拠点に実施する、設備・教育・研究・制度改革を一体とした取り組みについて紹介する。

セッション後半は、登壇者によるパネルディスカッションにより、大学のイノベーション・コモンス化の課題とURAの役割を議論する。

## オーガナイザー

### 大西 将徳:京都大学・学術研究支援室・URA



京都大学大学院人間・環境学研究科修了、博士（人間・環境学）。日本科学未来館 科学コミュニケーター、神戸大学大学院理学研究科 学術研究員等を経て、2017年3月より京都大学学術研究室 URA。理工系グループ URA として工学研究科の研究者のプレアワードから産学連携等の研究力強化に資する活動を展開する傍ら、京都大学桂キャンパスのイノベーション・コモンス化を目指した活動を推し進めている。

## 講演者



**笠原 隆:文部科学省・大臣官房文教施設企画・防災部・技術参事官**

1990年文部省入省、2007年大臣官房文教施設企画部施設企画課企画調整官、2008年文化庁伝統文化課文化財保護調整室長、2010年大臣官房文教施設企画部施設企画課防災推進室長、2012年大臣官房文教施設企画部整備計画室長、2014年東京大学施設部長、2017大臣官房参事官(併)内閣府参事官、2017大臣官房文教施設企画部参事官、2019年大臣官房文教施設企画・防災部施設企画課長を経て、同年10月より現職。

NO  
PHOTO  
AVAILABLE

**林 里織:山口大学・大学研究推進機構・准教授**

新エネルギー・産業技術総合開発機構／産業技術養成技術者（NEDOフェロー）の後、山口大学産学公連携・イノベーション推進機構（現：大学研究推進機構）に専任教員として着任。一貫して、産学連携、技術移転、大学発ベンチャー起業支援等の業務に従事。自治体、金融機関等と連携し、地域における産業振興、新事業創出、アントレプレナーシップ教育を推進中。山口大学大学院理工学研究科／博士（工学）。

NO  
PHOTO  
AVAILABLE

**米澤 恵一郎:九州工業大学・オープンイノベーション推進機構  
産学官連携本部・准教授(専門職)**

千葉大学で有機半導体の電子物性研究を行い、博士（理学）を取得。学振DC2の切替で1年間分子科学研究所（学振PD）に勤務。その後、元々興味があった研究支援者として九州工業大学に着任。現在5年目。基盤研究から社会実装支援まで一貫した、「横串型支援」をモットーに研究者支援を実施中。研究環境整備に関する学内プロジェクトも担当している。JSTPM研修第2ステージ研修生。JSTのイノベーションプランナーとしても活動中。

NO  
PHOTO  
AVAILABLE

**佐藤 梨都子:九州工業大学・オープンイノベーション推進機構  
産学官連携本部・URA**

産業技術総合研究所にテクニカルスタッフとして勤務しながら、佐賀大学にて博士（工学）を取得。2021年4月より九州工業大学にて、フェローシップ事業担当URA。主に、博士後期課程学生の支援を行う。



**田上 款:京都大学・学術研究支援室・URA**

海道大学大学院理学研究科化学専攻修了、博士（理学）。米国・国立衛生研究所・Visiting Fellowを経て、2013年より京都大学宇治地区担当URAに着任。2016年からKURAに所属。研究者に伴走しながら、研究力の強化と学術の発展に貢献することが目標。京大桂図書館・研究シーズ・カタログ「桂の庭」の立ち上げを通して、イノベーション・ commonsの活性化を強く意識するようになった。